

第3回 岩内町立小中学校運営協議会推進委員会 議事録

日 時 平成29年10月20日(金) 18:00～18:50

場 所 岩内町立第一中学校 会議室

議 事 内 容

(本間委員長)

定刻になりましたので、ただいまから「岩内町立小中学校 運営協議会推進委員会」を開催いたします。

皆さん、先日実施した先進地視察、大変ご苦労様でした。先進地視察を進める中、学校運営協議会推進委員会のメンバーが中心となり、各学校が抱えている課題を共有し、それらの課題を解決するための応援団となり得る地域人材ネットワークを構築していく、あるいは、その核となる地域コーディネーターの育成を検討し、コミュニティスクールを円滑に導入していくということが、「よりよい学校づくり」や「子ども達が健やかに成長することができる地域づくり」の一助になるのではないかと再認識したところでございます。

皆様におかれましても、これまで培ってこられました経験を基に更なるお力添えを頂きたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、本日は東小学校と第一中学校の方から、学校経営方針に関することや、現在学校が抱えている課題についてのご報告をいただき、その後、課題の解決に向けた意見交換をさせていただきます。それでは、次第に沿って進めていきたいと思いますが、早速ではありますけれども、東小学校さんからご報告をお願いいたします。

(佐古岡委員 / 岩内東小学校 佐古岡教頭)

岩内東小学校の教頭をしております佐古岡と申します。4月から教頭でおりますけれども、統合になった年からおりますので、過去4年間を含め、本校の課題と成果については、本日より一緒に来ている鎌田先生と一緒にしますので、そういうことも含めましてお話できるかと思っております。資料に沿ってお話したいと思っておりますのでご覧ください。2枚目以降に今年度の学校経営方針を付けております。本校の学校教育目標が「明るく 伸びる子」ということで、具体目標を掲げながら学校教育を進めているところです。2ページ目をご覧ください。今年度の重点目標が掲げられております。「基礎基本を確実に身に付け、主体的・協働的に学び、活動できる子どもの育成」ということで、指導の重点等も示されております。それに関わって、指標ということで、数字で表しているのが、ページ中段の点線で囲まれている部分です。チャレンジテストというのは、年に何度か行われていますが、その正答率を管内と同程度以上とする等々いろいろあります。数値目標を持って達成状況について判断をしているところです。それ以下の具体的な方策につきましては、ずっとお話をしていくと時間が無くなってしまいますので、後で読んでいただけたらと思っております。ということで、最初のページに戻ります。

本校の成果・課題についてあげました。成果の1点目、「学習習慣の定着」ということで、岩内

町教育研究会というものがあるんですけども、学習規律を整えていくですとか、そこと連動して学習習慣の定着、宿題や家庭学習というものにも継続して取り組んでいるところでした。先生方と子どもの頑張り、そして保護者の方々にもコメントを書いて頂く等の協力をしていただいたこともあり、今年度の前期の児童アンケートでは、ほとんどの子、91%が毎日家庭学習や宿題をしていると答えています。もちろん、個人差もあるわけなんですけど、休みの日も含めまして、学習習慣が定着していると言える成果であると考えています。

2点目です。「自己肯定感の向上」ということで、全国学力学習状況調査の質問紙の中で、「自分に良いところがある」と答える子どもが非常に少なく、残念な思いをしているこの数年間でした。推移をみますと、64.7%⇒57.2%⇒昨年度については、39.6%にまで下がりました。ですが、今年度は58.6%と持ち直してきております。これに答えた6年生に関しては、4年生の時から、算数科において習熟度別などに取り組んでおりまして、「できる」という思いを持つことが増えてきたのかなと捉えています。まだまだ低い数値ではありますが、自己肯定感の向上ということで成果としてあげました。

一方、課題の1点目、「学力の向上」です。先日も新聞等でいろいろと報道がありましたが、全国学力学習状況調査の結果が示されました。本校でいいますと、全て全国を下回っております。残念ながらという結果でした。ただ、良い兆しが見えてきまして、先ほど申し上げました算数科においては、習熟度別の学習が功を奏してきたためか、基礎基本の部分の算数Aが、全国は下回ってはいますけれども、その中でも良かったということで、昨年度と比べましても良かったところですが、やはり低いということで、今後も継続していくことが必要です。特に算数の学力向上に課題があります。

2点目です。「交通ルールの遵守、規範意識の醸成」ということで、今年度、非常に本校の児童の交通事故が多く、すでに5件も委員会に報告をしているところです。全て児童の飛び出しや安全確認の不徹底ということで、日常的に学校でも指導をしているのですが、徹底されないといいますが、身に付いていないということです。また、石や物を投げつけるという事も数多く耳にいたしています。つい最近も、東小校区の地域の方からお怒りのお電話をいただきまして、飼っている犬に石を投げつけるということもありました。これについても、各学級でも指導はしているんですけど、なかなか無くならない。力不足を感じているところです。また、ゴミの放置ですとか、遊んでいた場所でのイタズラ、わざとじゃないにしても、壊すというようなこともあり、マナーやルールなどが、まだまだ身に付いていない部分があると思っています。

3点目です。本校は歴史があるということで、学校自体も非常に古く、色んなところが、水が漏ってきたり、壊れてみたり、止まってみたり、色々なことになっております。また、グラウンドについても、すぐに雑草が生え、水はけが悪いこともあり、外での体育の活動等も一度雨が降ってしまうと、しばらく使えないとか、昨年度に続き、今年度も、運動会も延期せざるを得ないですとか、そういったことで活動が制限をされているところもあります。色々な備品についても、老朽化が進んでおりまして、色々と買っていただいたり、直して使っているところもあるんですけど、なかなか手がまわらないということもあるのが課題です。

最後、人材活用ということで、学校から地域の方々に発信する力が弱いこともあり、お手伝いの方がなかなか集まらないといいますが、水泳学習でいいますと、一人だけでして、手伝っていただけるだけでありがたいんですけども、地域ボランティア一人だけで、本校は一人定員が足

りていないものですから、手薄な中での指導ということで、子どもたちにも十分に手をかけてあげられてないところがあるのではないかと考えています。また、図書ボランティアというのがありまして、学校の中で、環境整備の図書ボランティアと読み聞かせのボランティアの方がいらっしゃるんですが、読み聞かせの方が少なく、都合がつかなくてお休みされる方がいるということもありますので、どの学級にも、まんべんなく読み聞かせの活動が進んでいないのが現状です。ということで、本校の成果と課題について、以上です。

(本間委員長)

佐古岡教頭先生、ありがとうございました。引き続き、第一中学校から報告願います。

(藪委員 / 岩内第一中学校 藪校長)

第一中学校校長の藪と申します。よろしく願いいたします。先日の登別では、せつかなので、解らないことを聞こうということで、いっぱい聞いてしまいました。皆さんに大変ご迷惑をかけたと思っていますけれども、ご勘弁いただければと思います。表紙めくってもらって、2枚目のところから、ページは8となっていますけれども、8～10ページというところで、今年度の経営方針などを載せています。今年度ですね、新たにというところでご紹介させていただくと、最初のページにあります「目指す学校像」、これまでは、「当たり前で過ごせる」という言葉だったのですが、今年加えたのが「地域と共に歩み地域に愛される学校」です。やっぱり地域があつての学校、地域と共に育っていく、進めていく、そんな学校でありたいなど、それを目指す学校像を据えることで、より教育活動を充実させていこうと思って付け加えたのがこれです。以下、重点目標あるいは、その経営の方針、重点課題等を載せていますが、たくさんありますので、一つひとつは申し上げられませんが、後ほど目を通していただければというところですが、その中でも、太字にしているところを重点として考えているところです。

最後に付けているのが教育ビジョンということで、たくさん書いてあるものを1枚でざっくりとまとめて見ていただけるものとして、これを作りました。地域の願い、子どもの願い、保護者の願い、をしっかりと受け止めて、特別支援教育の視点、つまり一人ひとりが大切にされるということをベースにしながら、体力・学力を身に付けて、豊かな心を育ていきたい、その中心に据えているのが、「自己肯定感」。これが、あらゆる活動の原点というか、原動力になっているだろうと、そこがないと「やらされ活動」になってしまうだろうと、そこを高めていこうと、その土台というか、基盤といいますか、「できる当たり前」を増やしていく、その質を高めていこう、そんな取組をしているところです。そして、そういうことを通して、目指す生徒像、そして学校像、教育目標に活かしていこうと思います。

では、そういう方針のもと、今年度の成果と課題ということで、最初のページに戻りますが、まず、最初は、成果であります。「自己肯定感の向上」が見られたということで、昨年の全国学力学習状況調査、これは4月に行うのですが、その数値を見ると、非常に全国とはかけ離れて低いんですね。要するに、自分に自信が持てないという子どもたち、力が無いわけでも、なんでも無いだけけれども、そこが、非常に数値として低かった。良く見れば、日本人の特質というか、奥ゆかしさ、というものかとは思いますが、もうちょっと高くてもいいだろうと実感しました。なにか仕掛けたいと思ったんですが、なかなか中学校って、忙しいんですね。4月に始ま

り、旅行行事があって、中体連があって、ばたばたと過ぎていくと夏が終わります。夏が終わると、本校は一中祭って文化祭をやるんですけども、それに向けての取組が始まって、10月になる。息つく暇も無く、そこに行ってしまうってところがあるので、仕掛けるんだったら、10月、11月かなと思ってた時に、給食残量というのに取り組んできて、よくよく見ると一カ月に178kgが残量として残していると報告があったので、これだなと思って、昨年取り組んだのが給食残量を減らしていこう作戦だったんですね。全校朝会で、178kgという数字とともに、子どもたちに色々考えてもらう仕掛けをしながら、178kgってどうやったら具体化をして子どもたちに解ってもらえるかなと考え、思いついたのが、印刷用の紙なんですけれども、それを178kgこの長机の上に乗せて、持ってもらったんですが、当然持てないですよ。3年生の元気のいい男の子でもやっと浮いたというところで、それを減らしていこうと、では、どれだけ一回の食事で一人当たり頑張ればいいのかというと、割り算していくと、実は48gということだったんです。48gを1回の食事で一人ひとりが頑張って取り組めば、解消できるんだということを、このペットボトルにお茶を入れて、48gを見せたんです。「これだけなんだよ」って言って取り組んだら、なんとその翌月には、半分になりました、約80kgです。その翌月は約40kg、半分、半分というふうになっていった。すごい目に見えてみんなの努力が実った、そんな取組になりました。勉強とは関係ないですが、そういうところから「やればできるんだ」と自信につながったと思います。反省としては、示し方が良くなかったと思うのですが、お茶にして示したので、子どもたちは汁物も全部飲まなくちゃいけないと思ったんですね。でも、残量として残るのは、ザルに入る野菜とか麺とかそういうものなので、汁はスルーしていくので、僕がこうやって示したために、しっかり飲んでくれていたのですが、それは、違う場面で謝りました。そんなところから、少しずつ自己肯定感に自信を持って活動できるというところに繋がってきたと思ったのが、実は今年の4月の同じ調査で数値がぐんと上がっていましたので、これは良かったなと思いましたし、今回、本校で弁論大会をやったんですが、その弁論大会で一人の女の子がクラスの取組を紹介して触れていましたので、本当に一人ひとりもそうですし、クラスとしての取組としても高まったと思っています。

それから2つ目、「落ち着いた学校生活」。先ほど示しました目指す学校像の中にも「安全・安心に過ごせる笑顔あふれる学校」と書きました。やっぱり中学校の学校生活は、落ち着いた学校生活というのが本当に大切になってくるんですけども、今、それが実現できていると思っています。何年か前は、そうでない状況が本校も含めてあったようですけども、今は落ち着いています。僕も2年生の数学にちょくちょくお邪魔させてもらいながら、T2と自分では呼んでいるんですけども、授業の中に入ってみています。先日、3年生の中でこんなことがありました。授業ではないんですけども、実は今日、岩内文化センターで小中音楽交歓会というのがありました。本校から3年1組が出たんですけども、残念ながら3年2組は出られなかったんですね。この1週間、音楽交歓会に向けて3年1組が放課後練習をしていたんです。そうすると、掃除も当然遅れることになるんですけども、「すいません、遅れました」って生徒が掃除場所に行ったら、3年2組の生徒がトイレ掃除を3年1組に代わってやってくれているっていうね、そんな温かくなるシーンがありました。それが、ずっと普通にできている3年生っていうところかというと、そういうのを見て、2年生も1年生も、いい状況で暮らしていると思います。だからといって問題が一つも無いわけでは勿論ないんですけども、そういう雰囲気の中で学校生活に取り組んで

いるということです。

3つ目としては、昨年、私が本校に来てから、先ほども言いましたけれども「当たり前」っていうものをどんどん増やしていこうと、これができて当たり前、あれもできて当たり前、そういうできる当たり前を増やしていくとともに、その質を高めていきましょう。本校の3階の廊下には、「聞こえない挨拶は挨拶じゃない」という標語があります。生徒会が書いて張ってくれているんですけど、「おはようございます」と言っても、聞こえなかったら、これは挨拶じゃない、しっかりと相手に伝わるように挨拶しましょう。それが質を高めるということだと思んですけども、そうやって言っていることが、生徒会の方にも反映されて、しっかりと全校的に取り組んでいます。

それから4点目、「部活動での実績・成果」ということで、結果として現れているというのを載せました。これだけじゃないですけども、主なものということで紹介させていただきました。

課題ですけども、3点あげています。本校も「学力の向上」を第一にあげました。本当にこの数値はお恥ずかしいので、小さく紹介いたしますけれども、大きく全国の平均値・平均正答率から離れています。ちょっと学年差というものもあると思うんですけども、でも、本当に、3年生の様子を見てみると、数値に現れない、先ほどの良さっていうのにずいぶん現れているところがあります。ただ、それだけでは、この先、困ることもたくさんあると思うし、やっぱり学力を身に付けるということが、中学校の命題でもありますので、そこで今、学習習慣を定着させようという取組で、家庭学習に取り組んでいるところです。毎日毎日、家に帰って何をどれだけやるのかっていうのを帰りのホームルームの時にみんなに書かせています。それで、それに基づいて、家に帰ったらチェックをしてもらって、翌日その紙を出して、自己評価をもらう。そして、学校側はコメントを書いて、また、帰りのホームルームにそれを書いて、という繰り返しをしています。なんとかその家庭学習を定着させたいということをやっているんですが、先ほど、東小学校さんの方では定着しているようなので、どこでどう変わったのかなと思って聞いていたんですけども、家庭学習をやっている子は本当に少ないです。一学期の終わりに全校にアンケートを取って集計した結果を、この前、家庭学習を始めるぞっていう時に、全校朝会で話したんですが、反応としては、そんなに少ないんだっていうところでした。なので、効率の良い勉強ってのもあるかもしれませんが、そこその勉強時間が家庭でされないと駄目だろうと思うので、定着するまでは強制力を働かせるつもりで、一生懸命取り組んでいるところです。やっぱり、一カ月では効果は出ないと思うので、1カ月、3カ月先にその効果が表れると思って、一生懸命やっているところです。

2番目は、「不登校生徒の未解消」ということで、全体として6名ということで書きましたけれども、どの学年にもいます、男女共。この6名は、ぱったり来られなくなってしまった生徒です。来たり来なかったりする生徒を含めれば、まだ増えます。不登校対策委員会という、校内でそういう組織を立ち上げながら、学校で解消に向けて取り組んでいこうということで動いていますが、なかなか解消には結びついていないということです。

最後にあげたのが、「スマホ等インターネットトラブルへの対応・警鐘」ということで、所持率も数年前に比べると非常に高くなっていますし、携帯ではなくてスマホを持っているのが圧倒的に多くなっています。最後に書いた、「トラブルの解消に学校に相談が持ち込まれる」というところで、例えば、こんなケースが1学期にありました。学校で持てなんて一言も言っていないし、

僕は持たなくていいと思っているんですけども、持ったがため使いたくなるのは当然で、使うわけですが、主にLINEでグループを作ってやっているんですけども、その中で、言われた、書き込まれた、何かされたということで、その解決は学校に来るんです。学校が絡むことでならいいと思うんですが、そういう相談も寄せられてくるっていうのが現状だということです。これについては、たくさんマイナス面があると思うので、そういうところは学校だけじゃなくて、町として取り組むことにすごく大きな意味があるだろうなと思って、協力を依頼したいと思っています。長くなってすいません、以上です。

(本間委員長)

岩内東小学校の佐古岡教頭先生、岩内第一中学校の藪校長先生、報告ありがとうございました。

各学校の方からですね、学校の方針ですとか、取り組まれてきたこれまでの成果ですとかを絡めて、最後に課題というところで、いろいろと課題も存在しているということでご報告をいただきました。その課題について、課題の解決策をこの場で意見交換したいのですが、一中さんと東小さんでは、地域と共に、地域づくり、学校づくりという部分ですとか、東小学校の方でも、地域に根差した学校づくりというところで、それぞれ方針をあげているところなんですけれども、課題の解決に向けて、地域の協力を頂きながら、どういうふうに解決に結びつけるのかも、このコミュニティスクールの大きな力になるころだと思っています。解決策ということで何かご意見等があれば、お伺いしたいと思います。今聞いてすぐに意見が出るのもなかなか難しいかとは思いますが。今後、コミュニティスクールの基本指針というものを今年度中に作成をするというところもごございます。まずそれに向け、この委員会の中で各学校の課題ですとか、解決策というものについて、一定の方向性で共有するというところで、それが指針作りの土台になっていくのかなと思っています。次回の研修会では、以前にもお招きした北海道大学の出口先生をお招きして、課題解決策についてアドバイスをいただきながら、再度みなさんと検討していきたいと思っておりますが、今の段階で、何かご意見ですとか、ご報告があった中でのご質問でも構いません、何かございましたら、ご発言をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

(藪委員)

いきなり、解決策っていうのもなかなか無理だと思うので、初めて聞いた方もたくさんいらっしやと思います。そういう中で、意見交流からスタートしないと、進んでいけないと思うので、答えられる範囲では答えようと思いますので、何かわからないことがあったら聞いてください。

(本間委員長)

すいません。学力学習状況調査というのは、全国一斉のテストということなんですか。

(藪委員)

小学校は国語算数。国語と算数もABがそれぞれあります。中学校も国語と数学でABがあります。そうやって学力の調査をするのと併せて、学習状況調査といって、児童生徒の質問紙に70～80項目ぐらいあって、「朝ごはんを食べますか?」とか、「寝る時間は決まっていますか?」

とか、そういう生活習慣のことだとか、学習に関することを質問していくというそういう中身になります。それをあわせて、全国学力学習状況調査ということです。

(本間委員長)

両校で共通しているのが、「学力の向上」に関してですけれども、中学生になれば、スマホやインターネットの関係があがってきます。やっぱり中学校になれば、スマホはほとんどの生徒が持っているような感じでしょうか。

(藪委員)

そこまでは持っていませんけれども、学年が上がるごとに所持率が高くなっていきます。スマホっていうものを持っていなくても、それに代わるゲーム機等で代用ができますので、例えば、眠そうな子がいて、「どうしたの？」と聞くと、朝4時までオンラインゲームをやっていたとか、オンラインゲームの相手はクラスの友達だったとか、「それ大丈夫なの？」と聞くと、「部屋にあるし、親にも怒られないし」ということを言っているわけです。そこに、一定のルールが必要だし、使い方というのが、ご家庭でも当然、出てくるだろうと思います。そういうのがジワワワと、使い方に歯止めがかからない状態だとまずいと思いながら、警鐘を鳴らさなければ駄目な時期に来ているというところではあります。それを、第一中学校だけでやっても駄目だと思うので、できれば、こういう場で共通して、よし取り組もうというふうにしてけると、すごく効果が上がると思います。

(小野委員)

東小学校のPTAの小野と申します。スマホに関していうと、小学6年生だとほとんどの子が持っていると思います。うちの子どもには持たせていませんけれど、うちは、させないのもどうかと思ったので、嫁のスマホを連絡ツールとして使わせています。放っておくと、休みの日は一日で百何十件といっても少ないくらいやっています。今、子どもたちの間で、LINEは無料だって思いがあるんで、そうなっているのかなと思うのと、スマホを持つこと自体にお金がかかることを理解できていないんじゃないだろうかと考えています。何人かの親に聞くと、上限設定やギガ数を決めておいて、それ以上見たら速度制限入って見られなくなるとか、しているみたいですけど、先ほど言われたとおり、ゲーム機でもなんでも、YOUTUBEは見れるので、まあ何人か集まれば、集まっているのに、なぜかそれをやっている。ちょっと前はDSだったんですけども、今はスマホでYOUTUBEを見て、こんな面白い動画があったとか、あれがあったとかやっている状態です。さすがに夜中になってから、LINEを頻繁にやっていることはないんですけども、去年、5年生の後半から持ち出した子たちは、面白がって夜とかやっていたので、何人かの親御さんと話して、夜はやめさせようと、グループラインも解散させたんですよ。その次の週の親子参観で、その親御さんと話して、「さすがにこの状況は良くないね、まだ早い」といってやめさせた経緯はあります。これに関していえば、スマホを持つことに関しての親の方の使い方ってのも必要だと思う。お金がかかっているんだということ。今、いくら格安といたって、親と合わしたら何万円てなっちゃう時代なので、ここに関しては、先生たちが言われている通り、町全体でやっていくという、年齢にあった使い方、さすがに自分の家でも、中学校で部活始め

たり、塾に行き始めたら持たせないと、と思っているところがあるので、たぶん今の状況が続けば、まだ6年生だと没収という言葉が親から聞こえますが、中学校になったら、そういう訳にもいかないだろうなって、これに関しては、共通して取り組んでいくというのは有りだと思います。グループラインでいじめられて、転校を余儀なくされちゃうというニュースを聞いていると、それが、もし岩内町内であれば、西か東に移るしかないとか、かといって、じゃあ、どこまで学校で取り決めたからといって、どうなるんだっていう問題も次は出てくると思うので、なので、親に対する指導じゃないですけど、話を聞いてくれる親は、そんなに非常識な使わせ方はしないと、思います。聞いてくれない親をどうするかっていうのが、一番大変なんじゃないかなと思います。今、PTAの立場になって色々な役員の仕事をやっている、言いたいことという人は、じゃあ手伝って言ったら、私は忙しいからと、自分の意見だけ言う方もいます。

そことリンクしてくるのが、交通ルールだと思います。これに関しては、道端で子どもがやんちゃして歩いていると、どこの子関係なしに、車止めて、「おう、楽しいか？」って話しかけてみるんですよ。「楽しいよな、そういう所を登って歩いたらな」って言うと、降りてくるんですよ。今の時代、下手に注意すると危ない時代って言われるけど、そういう人たちが一人二人いないと、どうにもならないんじゃないかと思うところがあるので、特に低学年のうち、うち下の娘が小学一年生なので、友達何人かと遊んで帰っていれば、右も左も見てないんですよ正直。なので、ちよくちよく、うちの娘を注意しがてら、周りの子も注意するっていうのがあります。

(本間委員長)

昔は近所に恐い親父の一人や二人が必ず居たものでね、それが恐くて、その親父の前では、ちょっとやめとこうみたいな、そんな雰囲気というのがありましたけど、今、言われたとおり、報復が恐いようなところがあって、なかなか注意したくてもできないという、そういう世知辛い世の中にもなってきた感じですが、LINE、スマホのことでいうと、やはり、持たせないというよりも、使い方を指導していく必要があるのかなと思います。けれども、各家庭に全てお任せとなれば、親の考え方も違うでしょうし、なかなか、統制とか図れないと思います。やっぱり、学校ぐるみ、町ぐるみでこういう事でやっていきたいと思いますという方向性を示してあげないと、なかなか難しいところかなと思います。小野さんからいただいた意見、僕もまったく同じ意見ではありますけれども、ほかの皆さん、いかがでしょうか。スマホやインターネット関係で、何かご意見あればお願いします。

(藪委員)

中学校では、持つなとは言っていない。ただ、学校には持ってくるなとは言っています、禁止です。学校に持ってくる場合は、本当にそれなりの事情があって、持ってこざるを得ないんだっていう時に限って、それを担任に朝に言って、預けて、帰りに持って帰るといようなシステムにしています。この前、教室でスマホが鳴ったんですよ。はい、没収ということで、「学校で2週間預かり」ということにしています。でも、様子を見てみると、さして困ってないんです。僕なんか、取られると慌ててしまうんですけども、さっきも言ったように代用品があるので、代用品でこと足りちゃうんですよ。そういう時代なんだ、そういう事なんだと思っています。

(本間委員長)

あと、他のことでも構いません、ご質問でも構いません、何かございませんか。

(大橋委員)

私、評議員をやっております。西小学校の学校経営方針は完璧にできていると思います。ただ、親の意識、PTAに出てくる親は問題ないと思いますが、先ほど第一中学校の校長先生が言ったように、これをやってきなさいと、小学校からきちっとやってきていることに関しては、それは、親も意識しているから、まあそれなりの教育ができるけども、やりなさいと言ったら、それが小学校からできてない人は恐らくやってこないと思う。だから、学校の方で、こうですってきちっと完璧にやっても、恐らく、親が教育に対しての意識がないと、中学生になって学力が落ちてきているのは、都会の子は競争がすごく激しいし、田舎になると、数が少なくて、あいつもそうだからといって、そういうふうになってしまうというのは、地区の子どもから、甥っ子から見てきて、学校のせいではなくて、親のせいであると思っています。その親を直さなかったら、これは上がりませんとっております。

(本間委員長)

はい、ありがとうございます。他に何かございませんでしょうか。東小学校さんから、設備の関係の課題もあがっていましたがけれども、これは、町の方に頑張ってもらうしかないでしょうか。

(小野委員)

東小のグラウンドですが、2年続けて、運動会になると、親が総動員して、全部砂で埋めて、けっこうきついんです。

(本間委員長)

本当に水はけ悪いですね。

(事務局 教育委員会 青山課長)

グラウンドは、第二中学校がこの前やりまして、前々年度にやりました。今年、西小学校やって。あと東小学校だけなんです。これから、予算やりますので、財政などと話しながら、市の財政運営かなり厳しい中で、できるのであればやっていきたいと思います。

(本間委員長)

それでは、今回は、先ほど言いましたとおり、大学の先生をお招きして、色々とアドバイスをいただきながら、議論を進めていきたいとっております。今日の資料の中で、参考資料ということで、不登校に関することですか、スマホの関係ですか、他の地区の取組状況などの資料が出されております。こういったものを参考に、次回開催する時まで、各自、解決方法だとか、一つでも二つでもご意見を持ち寄っていただきまして、次回の会議の方を進めていきたいとっておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、今日のところはこれで会議を締めさせていただきます。どうも大変ご苦勞様でした。